

授業の具体的展開例

〈話し合いによる集団解決〉

(プロジェクターで表示しながら発表) …

T : グラフをかいて気付いたことや工夫したことを発表しましょう。

C : ○のグラフを塗りつぶさず、途中から、○(白丸)にしたら早くできました。

T : なるほど、よい工夫ですね。

C : グラフの5つずつの目盛りの線を見やすいように太くしました。

C : わたしは、グラフの5つずつの目盛りの線を見やすいように太くして、5、10…と数字をいれました。

C : わたしもCさんに賛成です。わたしもグラフの5人ずつの目盛りの線を赤でかき、人数もかきました。とても見やすくなりました。

C : わたしは、見やすいように○のマスを黒く塗っちゃいました。…

T : なるほど、すばらしい工夫ですね。まず、目盛りについてたくさんの工夫が出ましたね。目盛りを打っていない人は、Cさんのように、このように目盛りを打ちなさい。さて、横の目盛りは人数を表しています。1目盛りは何人ですか。

C : 1人です。

T : そのとおりです。次に、Cさんはマスを塗ったそうです。皆さんも塗ってみましょう。とても見やすくなりましたね。皆さんの工夫を集めると、こんなに見やすいグラフができました。このようなグラフのことを棒グラフと言います。ワークシートに「ぼうグラフ」と書きましょう。

では、分かりやすいグラフ「ぼうグラフ」の表し方をまとめましょう。…

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、棒グラフを最初から提示せず、児童なりの表現方法を考えさせ、話し合わせることにより、思考力、判断力を伸ばすことをねらいとしている。そのため、意図的に方眼マスだけのワークシートを配付して、○グラフ(2年生で既習)にかく煩雑さを感じさせ、目盛りや数値の役割に気付くような学習過程を組んでいる。自分の工夫点を簡単に文に書かせて、分かりやすく説明させるとともに、他の児童の工夫のよさをとらえさせるように集団解決の方法を組み立てる。

そのため、机間指導において各児童の工夫点を把握し、○グラフから棒グラフへと導く指導計画を立てることや、グラフをかく作業の個人差を捉えた時間配分などに配慮する。

また、児童に工夫させ解決させる学習事項と、棒グラフそのものの指導事項を区別して授業を展開することが重要となる。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時ではグラフの工夫点を明確にして、比較させることが大切である。その工夫点を相手に分かるように説明させることにより、思考力、表現力を伸ばす。

「活用」の力を見取る具体的な視点として、

- ①棒グラフの意味が分かり、読んだり、説明したりすることができる。
- ②棒グラフの意味が分かり、読むことができるが、説明が十分でない。
- ③棒グラフの意味が分かるが、読むことが十分でない。
- ④棒グラフの意味が分からない。

が考えられる。③④の状態をつくらないために、児童の状況に応じて、予想されるパターンをあらかじめ掲示用に準備しておき、教師が掲示する→比較させて「分かりやすいグラフ」を選ばせる→理由を考えさせる、という展開を準備することも考えられる。

①の状態にするため、④はもちろんのこと、②③の児童に対して話し合いの場面における見取りと指導、適応問題での個別指導を充実させる。さらに、振り返りでは、学習内容を整理させ、書くことを通して既習事項を次の学習に活用する力を育てる。